

三役会議・連携強化懇談会を開催

三役会議では、「総会議事規定」に関する議論をし、連携強化懇談会では、現役からJAM結成以来の最高獲得額の賃上げの報告。シニアから7年連続で会員が減少で厳しい組織状況を報告し、シニア組織の拡大・強化に向けて現役に対し協力を要請しました。

第3回三役会議を開催



5月9日(火) JAM本部会議室において第3回三役会議を開催、三役全員が出席。冒頭大山会長より「コロナが5類に移行したが、高齢者の活動にとって厳しい状況あることに変わりはない。状況に応じ臨機応変に活動を展開していこう」との挨拶がありました。

第2回連携強化懇談会を開催

定期総会の運営に関して、規約の改定と、「総会議事規定」、「書面議決による総会規定」の二つの規定の新設について議論しました。規約の改定は定期総会、規定の新設は第2回幹事会でそれぞれ正式に決定されます。



第3回三役会議に引き続き、JAM現役・JAMシニアによる第2回連携強化懇談会を開催。現役からは安河内会長、川野副書記長、椎木副書記長、シニアからは大山会長をはじめ三役全員が出席しました。

冒頭安河内会長から、「300人未満の組合で平均5012円のベアを獲得した。物価高と危機的な人手不足という状況下で、JAM結成以来の賃上げ額となった。物わりの悪い春闘にしようというスローガンで中小の現場で組合が粘り強く交渉した結果である」との2023春闘結果についての報告がありました。

また、2025年の参議院議員比例代表選挙にJAMから組織内候補を擁立して闘うことを5月25日の中央委員会で決定するのでシニアクラブの協力をお願いしたいとの要請がありました。

シニア側を代表して大山会長からは「物価高が高齢者の生活に重くのしかかっている。現役は賃上げで対応している。高齢者としては下がり続ける年金や、社会保険の負担増に歯止めをかけていかなければならない。年収100万円台後半で高齢者の暮らしが何とかなるとか、高齢者はゆとりがあるとかいう高齢者バッシングのような話が横行しているのは問題である」との発言がありました。

早いもので、定年から17年の歳月です。振り返ってみますと18歳で社会人となり、転職せず42年勤務のうち30年は組合活動です。職場代表5年後に専従となり定年を迎えました。

の労働運動が時代の変革から、20年前と大きく変わっています。私の時は、4月に毎月賃金、7月と11月に一時金それと隔年に労働諸条件交渉です。

喜寿を迎えて「時代に即応した活動を」

栃木シニアクラブ

会長 高橋幹夫

主張



勤務しています。昨今

労使交渉は深夜の連続でした。交渉報告は、始業1時間前に門前に立ち「速報朝ビラ配り」や「昼休みに

職場報告」です。現在は3月の賃金交渉と2年に1回の労働諸条件の交渉で一時金の業績運動方式の算式確認です。組合は福利厚生活動や安全活動に生産性向上運動に力点が置かれています。組合員への報告も朝ビラ配布からパソコンの利用(現場は昼ビラ)に変化しています。

政治活動も大きく変化しています。市議員の選挙活動から国会議員選挙活動まで、事前活動の後援会入会活動の実態は大きく変わっています。50歳以降の方は理解して後援会に入会しますが40歳以下はプライバシーから加入拒否や入会しても「電話および訪問禁止」など、昔の政治活動は出来なくなりました。昨今の組合も変化しており、現役の組合員の苦勞を察しています。

最近の話題は「人集め」私に関わっている組織は、軒並み苦勞しています。退職者の集まりである連合退職者組織や8都県の労金友の会、地域の老人会も少かりです。時代に沿った活動を構築して改革をすすめるければなりません。

シニア側からは、7年連続で会員が減少、次年度は7000人を割る可能性があるという厳しい組織状況についての報告をし、シニア組織の拡大・強化に向けて現役に対し格段の協力を要請しました。



晴天のもと久々の大規模メーデーを開催

大正9年(1920)に始まった日本のメーデーは今年で94回目を迎えました。コロナ禍で2020年以降はオンラインや少人数での開催が続いていましたが、人数制限のない大規模メーデーは4年ぶりです。

中央メーデーは4月29日「支え合い・助け合う社会をつくり、くらしをまもる!笑顔あふれる未来をめざし力を合わせ、ともに進もう!」をスローガンに東京・代々木公園において28000人の労働者を結集して開催され、芳野友子連合会長は「コロナ禍に代わり生活を苦しめているのは高い物価だ」と訴え、「中小企業の賃上げが必要だ」と強調。そのために「適正

な価格での企業間取引が不可欠だ」と指摘しました。JAMシニアクラブからは大山会長をはじめ11名が参加、退職者連合全体では450名が参加しました。

埼玉 屋外交流会を開催

小泉茂 事務局長

JAM埼玉シニアクラブは3年ぶりに屋外交流会を実施しました。場所は北区王子にある飛鳥山公園です。ここは江戸時代から桜の名所として整備され、来年期から市場に出回る予定の新万円札の肖像画「渋沢栄一」が長らく住んでいた場所でも名所旧跡が多々あります。

4月25日先日まで夏のような気温が続きましたが当日は花冷えを感じさせるような中、13名の参加者が王子駅中央口10時に集合。まず山頂へ向かうモノレール(エスカルゴ)に乗車。山頂には飛鳥山の碑や佐久間象山の桜賦などがあり、飛鳥舞台(野外ステージ)を見下ろせ、案内に従って歩くと「紙の博物館」があります。ここは紙専門の博物館で、紙に関する資料を幅広く収集し保存・展示しているのを見て、紙は歴史を刻む大切な役目をして来たと思えられました。隣にある建物が「北区飛鳥山博物館」です。ここでは古代からの北



区の歴史・自然・文化に関する展示がされています。

その次に向かったのが「渋沢史料館」です。ここには渋沢栄一の生涯と多方面にわたる事業や人々の交流に関するたくさんの資料があり、近代日本の経済社会の基礎を作った偉大な人物像を感じることができました。また国指定重要文化財である「晩香廬」「青淵文庫」は渋沢栄一の喜寿と傘寿のお祝いとして寄贈された建物ですが、大正時代当時の建築の粋を感じさせてくれます。

王子神社へ向かう途中、今では珍しくなった路面電車(都電荒川線)を見ることができました。都電の名称は「東京さくらトラム」。都内唯一の都電で三ノ輪橋〜早稲田まで運行していて、沿線には桜やバラを楽しむ

ことができるそうです。私も一度乗ってみたいになりました。

王子神社から音無親水公園を通じて少し遅めの昼食

ミャンマー最近の情勢

在日ビルマ人は諦めない

JAMシニアクラブは2023年度活動方針で「軍事独裁により基本的人権や、労働基本権が抑圧されているミャンマーの民主的労働運動を支援する」との方針を提起しています。軍事クーデター後のミャンマー情勢について、在日ビルマ市民労働組合(FWUBC)のミンスイ会長から報告を頂きました。

FWUBCは2002年に設立し、在日ビルマ人(在日ミャンマー人)の労働組合で、2020年にJAMに正式加盟。

2021年2月1日のミャンマー軍のクーデターから2年3ヶ月で、ミャンマーのAAPP団体の調査で犠牲者は3519人。ミャンマー国内では物価が上昇し労働者の安全性が誰よりも保証出来ない状況です。2022年6月民主化活動家



会場へ到着です。昼食は中華の定食、喉を潤しながら久しぶりの屋外交流会に話の輪が進み、十分楽しめた交流会になりました。

4人の死刑が実行されました。2022年6月7日ジミさんを含む4人が、死のスーツを着て、毎日の健康診断のために2つのオレンジ色のショートパンツを履きました。公式の書簡によると、100人以上の死刑囚のうち、訴えと異議申し立てを却下されたのはこの4人だけです。

ミャンマー国内では軍評議会が支配した場所はほぼ首都圏とか大きな企業とか中国国境の近くです。

軍事クーデターに對抗し、2021年4月16日に連邦議会代表委員会(CRPH)によって樹立された内閣は2020年の総選挙で選出された国民民主連盟(NLD)所属議員や少数民族グループの代表が含まれ、拘束中であるアウンサンスー

チー国家顧問とウインミン大統領の役職は据え置かれました。NUG(国民統一政府)のメンバーのほとんどは国内の少数民族武装勢力の支配地域で身を隠しているか国外亡命中です。2021年5月5日、NUGは軍事政権に対する武力革命を開始するための武装勢力として「国民防衛隊(PDF)」の結成を発表しました。NUGはミャンマー国土の5割以上を勢力下に

収めたと主張していますが、実態は不明で外国からの承認を求めて外交活動も展開しており、2023年4月時点で8カ国に代表事務所を置き(日本、イギリス、オーストラリア、大韓民国など)、国際連合本部と東南アジア諸国連合(ASEAN)本部に駐在員を派遣しています。

2022年2月1日、NUG初代駐日代表ソー・バ・フラ・テイン氏が就任。FWUBCをはじめ在日ビルマ人達は諦めないで日本政府を含めて国際社会にも支援を求めています。

また2023年5月14日サイクロンモチャでミャンマーの西側の400人以上が亡くなり、2000人ぐらい連絡が取れなくなっています。人道的な支援カンパも必要です。日本の仲間の皆さんの支援を宜しくお願いします。